

# 鳥 害 対 策

～生態を知り、結果を出してこそプロの仕事～



株式会社 シー・アイ・シー  
鳥害事業本部 今井 金美

## 1. はじめに

鳥害のほとんどは、ドバトとカラス類であり、どちらも野生生物の一つである。野生生物と人との問題が発生する原因のほとんどは、餌付から始まっている。

東京都のカラス問題も、人は餌付の意識が無くても、豊富な餌を供給している点では立派な餌付である。公園、神社、駅前ではドバトへ餌を与える人が絶えない。建物においても集合住宅、病院等で餌を与える人が見られる。これらはドバトの生息、飛来が大変多い場所となっている。また農村部では畜舎へ採餌目的で多くの野鳥が集まる。

よって、人からの給餌に多くを依存していることがわかる。

## 2. 現状

建物における鳥害対策は、問題発生初期は部分的な対応をしている。(発生箇所への対策)

被害の拡大と共に、建物全体で検討することが必要と感じ、検討を始める例が多い。

この場合でも、生態的特徴を無視した物理的対策を実施する例が多く、ほとんどは失敗している。ネット、ワイヤ、剣山等を対策として設置したが、効果が得られずあきらめている。

実際は、設置箇所へは飛来が減少しているものの、他への移動が多いため、新たな場所への新たな被害が発生し、結果的に建物全体としては効果が無いと判断しているのが現状である。



ドバト



ハシブトガラス



ハシボソガラス

### ※失敗例 (ドバト対策)

被害状況	対策	結果
室外機裏で営巣していた	剣山を敷きつめた	無理矢理飛来し営巣を続けた
ひさし、出窓へ飛来していた	剣山を設置	窓枠サッシ下部へ移動した
バルコニーへ営巣、ねぐら入りしていた	防鳥ネット設置 ※被害箇所のみ	隣へ移動した
バルコニーへ営巣、ねぐら入りしていた	屋上へ防鳥ワイヤ設置	何の変化、効果もない
飛来して糞害がひどかった	磁石を設置	効果なし
間接照明内へ営巣していた	防鳥ネット設置	ネットの上へ飛来



プロテクター内へ営巣



ネットの上へ飛来



プロテクター内へ侵入

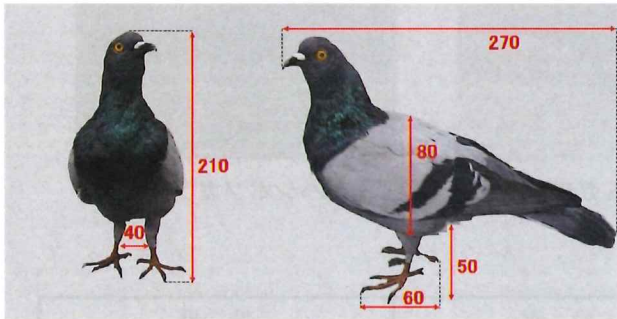
### 3. 特徴

ドバト、カラスの生態的特徴を理解した上で、効果的な対策を行う必要がある。

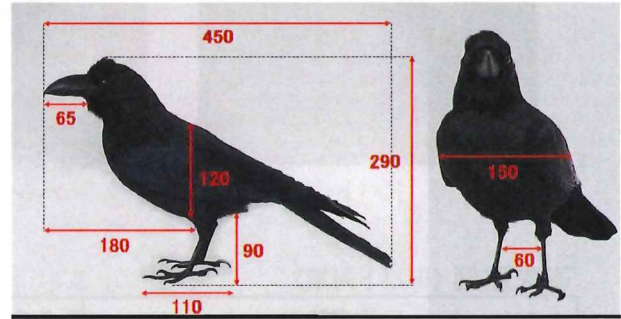
特にドバトは伝書鳩と同じように帰巢本能が大変強いことを理解した上での対策が成功のポイントとなる。

#### ①生態及び被害の特徴

項目	ドバト	カラス
体長 体高 足高 繁殖期 営巣場所 産卵回数 産卵数 餌	270mm 210mm 50mm 一年中 駅舎、集合住宅、工場、倉庫、高架下 橋脚等 4～5回/年 1～2個/回 主に穀類(種子・菓子等) ※人に多くを依存	ハシブトガラス450mm ハシボソガラス400mm ハシブトガラス290mm ハシボソガラス270mm ハシブトガラス90mm ハシボソガラス80mm 3月～7月 2月～6月 樹上、鉄塔、電柱、照明灯、屋上等 1回/年 1～5個/回 雑食
その他生態的特徴	<b>帰巢本能が大変強い</b> ため、 <b>営巣個体は建物に執着する。</b> 壁面より50mmの凸部あるとねぐら入りが可能である。金属は45度、コンクリートは60度以上の確度がないととまることが可能	10月下旬～2月上旬までは大規模ねぐらへ集まる。 繁殖時期はなわばりを形成するため、なわばり内に位置する建物への飛来頻度は多くなる。(被害も多くなる)
被害	糞害(悪臭、不快、不衛生) 健康被害(クリプトコッカス症、ホーム病等)	糞害、シール・保護材破損、威嚇 健康被害(クリプトコッカス症、ホーム病等)
被害箇所	バルコニー内、ひさし上部、出窓上部、はり上部、吹抜内部、換気口内部、窓枠上部等	屋上、アンテナ、高架水槽、設備機器、屋上緑化、耐火被覆材等



ドバト



ハシブトガラス

#### ②対策実施必要性の判断基準 (確認事項)

##### <周辺状況>

項目	高い ←	対策の必要性	→ 低い
・駅、神社、公園、高速道路、橋との距離	近い		遠い
・周辺の生息状況	多い		少ない
・周辺の対策状況	多い		少ない
・周辺での餌付	有		無

※営巣しているか、していないかが  
対策・計画上重要なポイントとなる。

##### <建物診断>

項目	高い ←	対策の必要性	→ 低い
・現在の飛来目的	営巣・ねぐら入り		日中の飛来(採餌、休息等)
・現在の飛来数(営巣、ねぐら入り)	多い		少ない
・吹抜	ある		ない
・梁が露出	ある		ない
・ひさし	ある		ない
・壁面凹凸	ある		ない
・バルコニー	ある		ない
・棟間距離	狭い		広い
・配管露出	ある		ない
・建物内餌付	有		無

#### 4. 対策

①バードトラップシステム (バードトラップによるドバトの捕獲) ※所轄官庁より「有害鳥獣捕獲許可証」を取得する必要があります。

ドバトは野生動物のため、勝手に捕獲することはできません。

ドバトは帰巢本能が大変強いいため、営巣、ねぐら入りした個体は建物に執着します。このため、現在の飛来箇所へ物理的な対策（飛来、侵入防止）を実施しても未対策箇所へ移動します。よって新たな被害が発生し、根本的な対策にはなりません。ドバト対策では捕獲は効果の高い重要な対策です。

※捕獲状況により延長あり（捕獲率99%）

＜仕様＞	期間	3ヶ月間
	設置場所	屋上
	設置台数	1台
	メンテナンス	1回/週

※生息数が多い場合や、多棟の場合では複数設置  
(例) 5棟 2台設置

##### ＜対策実施判断＞

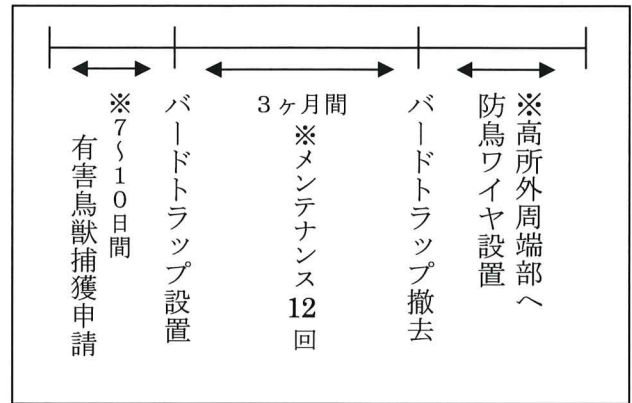
- ・飛来目的が営巣、ねぐら入りである
- ・卵を見たことがある
- ・夕方の飛来が見られる
- ・被害が拡大傾向にある（複数箇所の被害）
- ・飛来可能箇所全域への対策予算がない
- ・確実に現在の被害をなくしたい
- ・隣接建物に生息が多い
- ・餌を与えている人がいる
- ・周辺に高い建物が他にない



ドバト捕獲  
(トラップサイズ：1,000×1,000×1,000)

##### ＜注意事項＞

所轄官庁より許可を頂いて実施するとしても、周囲の中には愛鳥家と称し、反対する人もいることを考慮する必要があります。



バードトラップシステム工程（ドバト対策）

#### ②ラインシステム（防鳥ワイヤ設置）

鳥類は、飛来初期は高所外周端部へ飛来し、安全を確認します。何度かくり返し安全と知ると、下階へ移動し、ねぐら入り、営巣を始めます。このため、高所外周端部へ防鳥ワイヤを設置すると下部の安全が確認できないため、執着することはありません。

但し、現在飛来している状況で設置してもほとんど効果ありません。（新たな飛来個体には大変有効です）※種類によって設置位置・高さが異なります。

##### ＜基本的仕様＞

	ドバト対策	カラス類対策
・色	黒	マジョーラカラー（玉虫色）
・材質	SUS	SUS
・径(φ)	0.8mm	1.0mm
・設置高	H 100mm	H 150mm
・ステイピッチ	接着 @2,000	接着 @2,000
	ビス留め @3,000	ビス留め @3,000

##### ＜対策実施判断＞

- ・新築時に設置
- ・現在飛来が無いことを確認の上設置  
※周辺状況、建物構造上今後の飛来確率が高い場合
- ・生息、飛来がある場合は、捕獲終了後に設置（ドバト対策の場合）



防鳥ワイヤ設置例

### ③ネットバリアシステム（防鳥ネット設置）

開口部に対して、完璧に侵入を防止することができます。

但し、現在問題になっている箇所へ設置しても、未対策箇所へ移動し、新たな被害を発生させます。特定の場所へ絶対に侵入させたくない場合、または全域へ設置することによって効果は有効となります。

#### <仕様>

##### ・防鳥ネット

材質 ポリエチレン、SUS、ポリプロピレン

網目 40×40、15×15、50×50 (SUS)

色 黒（※SUS除く）

※基本的に設置は枠ワイヤを設置し、その枠ワイヤへネットを固定します。

#### <対策実施判断>

- ・開口部等ネットの設置により確実に侵入を防ぐことが可能（吹抜・外階段等）
- ・全域への設置予算が可能
- ・耐久性を求める（SUS）

#### ※防鳥ネット設置例



バルコニーへの設置



建物間へ設置

### ④プロテクターシステム（剣山タイプ設置）

防鳥ワイヤを設置するには距離が短く、複雑な構造の場合有効な対策です。

但し、ドバトの営巣場所に対しては効果が無い場合もあります。

それほど帰巢本能が強いと言えます。

<仕様> 材質 ポリプロピレン、SUS  
形状 多くの種類があります  
(※場所により選択)

#### <対策実施判断>

- ・目立たない場所（人目につかない）
  - ・他の対策が難しい
  - ・部分的な対策にとどめたい
- ※建物全体的効果を問題としない場合

#### ※プロテクター設置例



サインへ設置



換気ダクト上部へ設置

※①～④はプロとして対策を実施し、有効な対策です。しかし、対策実施の順番や、設置位置を誤ると効果の無いものになってしまう恐れがあります。

## ⑤その他

### － 1 忌避剤

臭い、ベタ付感等で寄せつけないことを目的としている。ホームセンター等でも販売され、手軽に入手・設置できる。価格も安価で、一般の方が自分で対策を検討するのに適している。ほとんどの商品は効果が期待できず、効果期間も短い。

一部、ジェル・粘性剤に効果を期待できるものもあるが、設置後の回収が難しく、建物を汚す結果となります。ゴミが付着する等、効果期間も短いことから、専門的立場での使用には問題があります。



粘性型忌避剤



ジェル型忌避剤

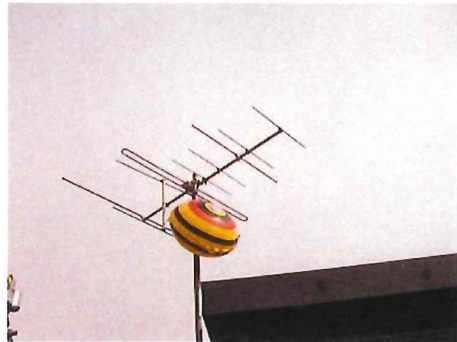
### － 2 デコイ

かかし、目玉風船、カラス模型等は、一般的には農業関係で広く使用されている。効果は一時的なため、建物での使用には不適と思える。

※農業においては、ほとんどが収穫直前の一時期に鳥害が集中しているため、一時的な効果でも有効な対策である。



カラスデコイ



目玉風船

### － 3 磁石、超音波等

磁石や超音波は鳥害に対していかにも効果がありそうに思える。実際はほとんど効果がないのが現状である。



磁石（黒丸部）の横へ飛来

### － 4 威嚇用機器

有声音による威嚇（追い払い）機器で単純に音量により脅すものと、ディストレスコールを使用したものがある。ディストレスコールは天敵の威嚇音や対象鳥の悲鳴等を発声させるもので、対象種ごとに音は異なる。

音量にて脅すものについても、単に音を大きくしても効果は低く、衝撃波と言われる振動を感じるような音が必要となる。

どちらも住宅街での使用には不適である。



カラス対策用「センサーバード・5」

※ディストレスコールタイプ

